

保健所からのお知らせ

関東地方を中心におとなの「風しん（3日はしか）」が増えています！

妊婦、とくに妊娠初期の女性が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんが「先天性風しん症候群」という病気（耳が聞こえにくい、目が見えにくい、生まれつき心臓に病気がある、発達がゆっくりしているなど）にかかってしまうことがあります。生まれてくる赤ちゃんを風しんから守るため、家族みんなで風しんの予防接種（麻しん風しん混合（MR）ワクチン）を受けることを検討してください。

【どんな流行状況？】



30代～50代の男性 が多く発病しています。

昭和54年4月1日以前生まれの男性は子どもの頃に定期接種の機会がありました。

また昭和54年4月2日～平成12年4月1日生まれの男女は接種率が低く、注意が必要です。

【予防するには？】 予防接種をお勧めします。医療機関に電話等で予約してから受診しましょう。

はしか（麻しん）も一緒に予防できる「麻しん風しん混合（MR）ワクチン」で受けることをお勧めします。

女性は 妊娠前に



**予防接種をご検討
ください。**

（接種後2カ月は避妊が必要。

接種回数は子どもの頃の

接種を含め、2回。）

成人男性は

風しんにかかったことがない方

風しんワクチンを受けていない方

どちらも不明な方



**予防接種を受けることを
ご検討ください。**

（2回接種しても差し支えありません。）

妊娠中の女性のご家族は



予防接種をご検討ください。

（妊婦は風しんの予防接種を受けられません。）

1歳児（第1期）、就学前の1年間

（第2期）は麻しん風しん混合ワクチンの定期接種を受けましょう。

和歌山市では先天性風しん症候群予防のため、風しん抗体検査・風しんワクチン等予防接種費用

助成事業を実施しています。対象者や方法について詳しくはお問い合わせ下さい。

（感染予防対策班 TEL 488-5118）



【もし、風しんにかかったら？】

風しんは、風しんウイルスによって感染します。潜伏期は2～3週間、発熱、発疹、リンパ節腫脹が3大症状です。通常、軽度の発熱とともに発疹が出現します。発疹は顔面から始まり、全身に広がります。リンパ節腫脹は、後頭部、耳後、頸部に目立ちます。予後は、一般に良好で4～5日で軽快します。

症状が出たら、医療機関を受診して診断を仰ぎましょう。周囲に風しんにかかった人がいたときは、受診前に医療機関に電話等でその旨を伝え、医療機関の指示に従いましょう。（風しんに感染している場合は、医療機関で他の患者さんに感染させる可能性があります。）

